

# 緑化だより

No.224

令和 8年3月号



アテツマンサク

- 季節の花(すげ(菅))
- 水生昆虫の話 (ヒラタカゲロウを比べてみよう)
- 小さな世界こけ(オオトラノオゴケ)
- 緑化研修会
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 緑学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県  
緑化センター  
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

## 季節の花

### すげ(菅)

咲く花は うつろふ時あり あしひきの 山菅(すが)の根し 長くはありけり

大伴家持 萬葉集 卷20-4484

これを訳しますと

美しく華やかに咲く花は、やがて衰え、色あせて散っていく時がある。

しかし、ひっそりと山中に生えている菅(スガ)の根は、目に見えないが長く変わりなく続いている。

この歌は、天平勝宝9年(757年、奈良時代)官人の三形王(みかたのおおきみ)邸で行われた宴会で、前年5月の聖武天皇の崩御や、年明けに、親交のあった皇族で左大臣の橘諸兄たちばなのもろえの死去、その後の苦々しい争いや世の中の形勢の変化に、自分の無力さを嘆き悲しんで大伴家持が詠んだ歌です。

スゲ(菅)はカヤツリグサ科のスゲ属の総称です。スゲ属の特徴は三角形の茎をもち、葉は細長く30cmぐらいです。

山地の林床や川岸、湿地などに生えています。

日本にはスゲ属は100種以上もありますが、ここに挙げた家持の歌は日本固有種で、寒い冬でも青々とした緑の葉があることからカンスゲ(寒菅)と思われます。

カンスゲは、本州(福島県以南)、四国、九州に自生し、冷温帯のブナ林、樹林下、林縁に自生しています。

葉の幅は1cmぐらいで堅くて光沢があり、断面はなめらかなU字型です。縁は硬く触るとざらざらします。

葉の根元の色は黒紫色になります。花穂は4月頃、先端に茶色の雄小穂1個と、その下に黄褐色の雌小穂5個ほどをつけます。

スゲ属の葉は硬くて丈夫なので、古い時代から葉を刈り取り乾燥させて、雨具としての笠や蓑みのに利用していました。又、文部省唱歌茶摘みでは「あかねたすきに菅の笠」と歌われています。

福島県会津地方ではミヤマカンスゲ、オクノカンスゲを使って、冬場の手仕事に「手さげ籠」、「肩掛け籠」などを作っていましたが、今も郷土の伝統工芸として受け継がれています。(上村)



オクノカンスゲ



菅笠と蓑

## 水生昆虫の話

### ヒラタカゲロウを比べてみよう

春の訪れとともに、山地溪流の川辺では寒い冬を幼虫(ニンフ)の姿で過ごしていたエルモンヒラタカゲロウやオオクママダラカゲロウたちが、川辺の岩や石に這い上がってきて、成虫になるために大量に羽化(ハッチ)しはじめます。

羽化したてのカゲロウたちは、水面をフワフワ流れてしまうものもあり、それが冬を越して活性も上がってきた溪流魚(アマゴやヤマメなど)にとって、冬の間ペコペコだった空腹を満たすための最高のご馳走になります。

そして、日本の多くの河川では3月1日に溪流釣りが解禁となり、カゲロウたちの羽化に合わせて種類やサイズ、色を似せた「フライ(毛バリ)」を選んで使う「マッチ・ザ・ハッチ」で、ヤマメやイwanaなどの溪流魚と駆け引きを楽しむ「フライフィッシング」をしている釣り人の姿は、春の川辺の代表的な風景です。

さて、この時期に羽化する代表的な水生昆虫の一種であるヒラタカゲロウの幼虫ですが、パッと見た感じタニガワカゲロウとよく似ています。どちらもヒラタカゲロウ科に属し、溪流の石の表面に張り付いて滑るように移動して生活する「匍匐型」の代表的な水生昆虫で、一見するととてもよく似ていますが、よく見ると幼虫の尾の数や体のつくり(ほふく)に違いがあるので、実は明確に見分けることができます。

最も簡単で確実な見分け方は、お尻から伸びる「尾」の本数です。多くのカゲロウは尾の本数が3本あるのに対して、ヒラタカゲロウは2本しかありません。タニガワカゲロウは3本あります。ただ、網で採集する際にこの尾が折れてしまうことも多々あります。続いて見分けるポイントは「第1えら」。ヒラタカゲロウは左右が腹面で重なり合うほど大きいのですが、タニガワカゲロウは、小さくて左右が離れています。

春の川の中では、どちらも羽化に向けて終齢幼虫か、それに近いサイズなのでとても観察しやすい時期でもあります。緑化センターの小川では、両方見ることができるので、探して観察してみたいかがでしょう。(西村)



ヒラタカゲロウ



タニガワカゲロウ

## 小さな世界 こけ

### オオトラノオゴケ

普通に見られるコケで、山地の、やや湿り気のある日陰地の岩や樹木の根元に生育します。

雌雄異株で、基物のうえを這う一次茎から、長さ5~10 cmの二次茎は、不規則に枝分かれし立ち上がります。

楕円形の葉は、大きさ2~3 mmで、ツヤがあり、くぼんでいます。葉先はやや尖り鋸歯があります。

中肋(葉の中央の脈)は太く、葉先まで伸びています。

孢子体は枝から数本でます。蒴柄は長さ2 cm前後、赤褐色の蒴(孢子のう)は細長い卵形で、蓋には長いくちばしがあります。

より湿り気が多い場所では、葉が平面的につくコトラノオゴケがみられます。(山根)



オオトラノオゴケの葉



オオトラノオゴケの孢子体

# 緑化研修会

- 3月6日(金) 『早春のコケ観察会』  
室内で基本を学んだあと、屋外で観察します。  
※自由参加、無料 ルーペ持参  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：広島大学名誉教授  
山口 富美夫
- 3月7日(土) 『早春のバードウォッチング』  
散策しながら野鳥を観察します  
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止  
10:00～12:00 管理事務所前 集合  
講師：日本鳥類保護連盟  
三次地方分会事務局長  
衛藤 慎也
- 3月14日(土) 『早春の植物観察会』  
散策しながら早春の植物を観察します  
10:00～12:00 管理事務所前 集合  
講師：緑花文化士  
横山 直江
- 3月17日(火) 『針葉樹の見分け方』  
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぶ  
※自由参加・無料、ルーペ持参  
10:00～12:00 学習室 集合  
講師：森林植物研究家  
埴田 宏
- 3月27日(金) 『3月の植物観察会』  
散策しながら植物を観察します  
※自由参加、無料  
10:00～12:00 管理事務所前 集合  
講師：森林インストラクター  
駄賀 恒男
- 3月27日(金) 『やさしい植物観察入門』  
～マメ科植物の特徴と見分け方-その2～  
マメ科植物について学びましょう  
※自由参加、無料  
11:30～15:00 学習室 集合  
コーディネーター  
駄賀 恒男

## ♪☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

学習展示館は工事のため、しばらくの間 ご利用の方にはご不便をおかけします。

・ひろしま遊学の森 スタンプラリー 2026 春 3月7日(土)～5月17日(日)

緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット！



・ひろしま遊学の森 第5回ピクニックウォーク 3月22日(日) 10:00～15:00

申し込み：広島市森林公園 (3/8(日) 締切り)

集合場所：緑化センター多目的広場

・さくら祭り 2026

3月20日(金・祝)～4月19日(日)

期間中、早咲きから遅咲きのサクラ約60種類が楽しめます。

さくらクイズに答えて景品ゲット



・さくら祭りお楽しみイベント

～八重ざくらを楽しもう～

4月12日(日)10:00～15:00

場所：レストハウス前広場 自由工作塾、ネイチャーゲーム、

## ◎展示会

場所：レストハウス (ボード展示)

・緑化センターのさくら 写真展 3月20日(金・祝)～4月19日(日)